



年頭にあたって



会長 蛭子政喜

会員の皆様、あけましておめでとうございます。令和5年の正月を楽しく過ごされている事とお慶び申し上げます。

昨年は北陸3県大会等お互いの親睦を図って実に有意義でした。

今年も会員の安全安心を大切にしながら様子をみながら各種行事を計画したいと思います。

当会のモットーであります龍馬の生き方、考え方など通じて会員相互の連携をより一層図る為、例会等で会員講話を中心に互いに研鑽を図り会員を増やしながより一層の交流懇親を図りましょう。

金沢龍馬会の皆様方の益々のご清栄と更なるご活躍をご祈念申し上げます。



《龍馬会北陸三県大会》

日時：7月9日（土）

場所：ANA クラウンプラザホテル金沢

金沢にて北陸三県交流会兼近畿北陸ブロック大会が開催されました。

参加者及び龍馬会：

全国龍馬社中副会長 牧田活宜
越前龍馬会 前田/非営利活動法人京都龍馬会 赤尾
/兵庫龍馬会 RyoMax 楠本/富山龍馬会 牧野
/金沢龍馬会 蛭子/紀州宗光龍馬会 臼井
/京都祇園龍馬会 荒木

来賓者：

全国龍馬社中専務理事	寺村勉
全国龍馬社中常任相談役	坂本匡弘
北海道ブロック ブロック長	青山中央
九州ブロック ブロック理事	柴崎賀広
高知ブロック ブロック長	西村義幸
海外ブロック ブロック長	中澤博志



北見まちづくり龍馬会 長 内/青森龍馬会 藤井
/渋谷龍馬会 関谷/長崎龍馬会 中村
/坂本龍馬俱樂部 宮本

引き続き同ホテル同フロアにて講演会、親睦会が開催されました。

参加者： 講演会 65名、懇親会 63名

（金沢龍馬会参加者：山田/不破/蛭子/中田俊/
佐藤/大坪/吉田/紐野/中城/寺元/松岡/山崎/朝日/
北川/折戸/池田/加藤/堀野/松下/稲原/坂本/西野/
中村/工藤 計 24名

① 講演会 坂本家 10代目 坂本匡弘氏
「龍馬亡き後の坂本家」

坂本家の系図と史料をご説明いただきました。

② 太鼓演奏 ダイアプラス

② 親睦会

挨拶：金沢龍馬会 蛭子会長

乾杯音頭：社中 寺村専務理事

発言：

越前龍馬会/富山龍馬会/京都龍馬会/

兵庫龍馬会/京都祇園龍馬会/紀州宗光龍馬会

北海道ブロック・北見まちづくり龍馬会/

九州ブロック・長崎龍馬会/高知ブロック・

坂本龍馬俱樂部/青森龍馬会/関東坂本氏・

渋谷龍馬会

④ 中締め：社中 牧田副会長

第34回龍馬 World in 旭川大会

報告：吉田信夫事務局長

「第34回 龍馬 World in 旭川」が昨年9月18日（日）開催されました。

金沢龍馬会よりの出席者は蛭子/宇賀/佐藤/佐藤夫人/吉田/朝日/森川 計7名でした。

一、大会

総合司会とパネルトークのコーディネーターは金沢龍馬会出身にて現在 NHK 札幌放送局でアナウンサーを務められている福井慎二さんが務められました。

・オープニングアトラクション YOSAKOI ソーラン 演舞 遼～すさび～

・大会実行委員長に引き続き、全国龍馬社中の橋本会長が挨拶されました。脳腫瘍治療終了後、初の登壇です。お元気な様子でした。

・基調講演として演題「坂本龍馬と北海道」高知県坂本龍馬記念会吉本館長と同じく前田学芸課長がそれぞれ講演されました。

・パネルトーク「志は北にあり 末裔たちと北海道」というテーマで、郷土坂本家 10 代目坂本匡弘氏、北海道龍馬会村井会長と小宮山事務局長、北海道ブロック長で北見まちづくり龍馬会青山会長、旭川龍馬の会石川会長の各位でした。

「龍馬の意志を継ぎ、龍馬の甥である郷土坂本家 5 代目坂本直寛が北海道北見へ移住する。

浦臼で縁ができて北見クンネップにて農場経営を行うと同時に伝道師・牧師として札幌や旭川で勤務する。

6 代目は東大卒業後、南満州鉄道に入社しパリ駐在。7 代目弥太郎は 5 代目の娘婿で三井物産から釧路へ赴任し、その後独立、木材輸入と牧場経営を行った。

火災の際、龍馬の愛刀「吉行」が類焼。そして札幌へ転居し、会社経営、議員、信仰、龍馬の顕彰を行った。かなりのやり手であった。

8 代目は北大を卒業し広尾で農場経営した。その後画家を志し札幌へ移住した。

風景画や植物画が得意でマルセイバターサンドで有名な六花亭の包装紙（十勝六花）をデザインした。

継続して東京にて 9 代目登氏、10 代目匡弘氏と続くが、坂本家の北海道での足跡は北見・浦臼・札幌・旭川・釧路・広尾・函館と全道に及び。

龍馬の夢と希望であった北海道の各地と縁を結びこととなった。（ちなみに北海道の東西は東京から兵庫県までと同じ距離であるそうな）」

・来年の開催地は高知県四万十市です。高知龍馬空港より二時間半かかる四万十川の恵みが多くある場所です。会員の皆様お越しください。

二、親睦会

大会終了後懇親会を開催。例によって日本各地の龍馬会との交流が行われました。

旭川は北海道のど真ん中にあり、羊を含めた畜産が豊富であると同時に、交通の要所であるため、太平洋・日本海・オホーツク海の幸を食べることができます。戦前・戦後共に対ソの基地となっており道路はあくまでも碁盤の目のようにどこまでもまっすぐでした。



志士たちが活躍した長崎とは⑮

佐々木高行（三四郎）

佐々木高行は土佐藩士で土佐藩からの出先官である。文政十三年、土佐国吾川郡瀬戸村（現・高知県高知市）に貧しいながら土佐藩上士・佐々木高順の次男として生まれる。

土佐藩の大監察時代は自身が上士でありながら尊皇思想を持ち龍馬も所属していた土佐勤王党と度々接触を持ち盟主である武市半平太と親交を深めた。

しかし、八月十八日の政変（文久3年（1863年）孝明天皇、公家一般、会津・薩摩藩などが過激攘夷派の三条実美などや長州藩を朝廷から追放した政変）以後、公武合体派が力を持ち佐幕派の山内容堂は土佐勤王党の弾圧を始めた為に佐々木は次第に勤王党と距離をとり始めた。

坂本龍馬との出会いは亀山社中が経営不振に陥った時期である。土佐藩が援助することになった為、佐々木は亀山社中をほぼ移行させた海援隊を監督する立場で長崎に赴任する。

長崎で事件が起きる。「イカルス号事件」である。慶応3年（1867年）7月6日深夜、長崎遊郭引田屋の前で泥酔して寝ていたイギリス軍艦乗組員2名が何者かに殺害された。現場から逃げた男の服装が似ていたとの情報で海援隊員が疑われた。駐日イギリス公使パークスが怒りまくり、幕府に対し一連の責任追及と犯人捜しを申し入れた。

佐々木は土佐藩側として交渉の矢面に立たされた。この頃は、大政奉還や薩長と土佐の方針の違いなど流動的な時期であった。真犯人は黒田藩士であったが、真相が判明したのは明治維新以降であった。

英国、幕府、土佐の思惑が合い乱れ、この事件処理のために土佐は時局に乗り遅れ、薩長に主導権を奪われたとも言われる。佐々木は龍馬と共に真摯に本件と取り組んだ。

この間、龍馬の紹介により眼鏡橋で有名な中島川沿いの玉川亭にて長州の桂小五郎（木戸孝允）や伊藤博文と面談し、資金まで融通している。龍馬は佐々木と行動を共にするだけでなく、少なからぬ書簡のやりとりをしている。

そして龍馬と中岡の暗殺後、佐々木は一時的に海援隊を預かり戊辰戦争時、一部海援隊士を率いて長崎奉行所を占領し薩摩藩や長崎在住の各藩と協力し長崎を管理した。

イカルス号事件処理で長崎に来たまま、いろいろな政局が起き、明治維新を長崎で過ごした。

佐々木は長崎その他で地位を得て実務・事件処理（隠れキリシタン裁判、土佐藩士のフランス兵士殺傷事件、横井小楠暗殺事件、榎本武揚など戊辰戦争戦犯処理など）を行った後、明治政府へ出仕した。そして参議、司法大輔を務め明治四年に岩倉使節団の一員として欧米各国を視察した。

佐々木は明治天皇の信任が厚く天皇の意向によって参議兼工部卿に就任した。


明治四十二年に侯爵を拜命するが翌年、八十歳で病没する。佐々木高行は天皇親政派の政治家として薩長門閥政治を批判しながらも「薩長門閥派 VS 自由民権派」の対立による国内分裂を防ぐ為に調整役に務めた優れた政治家であった。

長崎行きを命じられなければ維新以降の彼の活躍はなかったであろう。

参考資料：長崎新聞 Wikipedia

たま がわ てい あと
玉川亭跡

幕末当時、この地に「玉川亭」という料亭がありました。安政2年(1855)頃、藤井利平により西上町に創業され、のちにこの場所に移り、川魚料理で有名だったそうです。2代目・藤井静治は特に包丁道に通じ、四條家から包丁免許鑑札を授けられたほどでした。慶応3年(1867)8月20日、坂本龍馬と土佐藩士・佐々木三四郎は、この玉川亭で、長州藩士・木戸準一郎(孝允)と伊藤俊輔(博文)に会い、政治情勢について意見を交換しました。このとき、木戸から船修理費用の不足を相談されたため、龍馬らは土佐商会に掛け合い調達しています。



秋吉の木戸公(明治二十年京都撮影)

玉川亭跡の説明版：中島川の大井手橋近くにあったとされる料亭

【編集後記】

皆さま、今年も宜しくお願いします。昨年の金沢での『北陸三県大会』や「旭川での全国大会」のお話もいつかお逢いした時に何うのが楽しみです。心の中に常に“龍馬の志し”を持ち張り切ってまいりましょう。

会報も第34号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会 長：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com



会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>